

## 第三者評価結果

### A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
【A1】	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<コメント> 就労継続支援B型事業では、忘年会のケーキをどれにするか、口頭ではなく、写真でいくつかのケーキを提示し、好きなものを利用者が選んでいる。また、道に迷うなどの地誌的記憶が低下している方には、作業室までの案内板に矢印をつけ、視覚的情報を提供して、自力で戻ることができるようにしている。月末の金曜日には「お疲れ様会」を開催し、利用者の自主性を引き出すため、利用者が順番に司会を担い、「ひとことタイム」の時間を設け、全員が自分の今の気持ちを話している。今まで言葉がなかなか出なかった利用者も、話ができるようになっている。生活介護事業では、本人の意向を確認し、場所を選び、個別外出を行っている。		
A-1-(2) 権利侵害の防止等		
【A2】	A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	b
<コメント> 北部リハビリテーションセンター全体に権利擁護委員会を置き、権利侵害の防止などの取り組みを行っている。権利擁護委員会は、毎月、定期的に行われ、虐待が発生した場合には、再発防止策を検討することとしている。保護者が亡くなった利用者に対して、親族から権利侵害があり、相談支援につなげてグループホームへ入居した例などがある。虐待の届け出手順は、市がフローチャートで示し、集団指導も行っている。集団指導の内容は、伝達研修で全職員に伝えている。現在、「百合丘日中活動センター身体拘束等廃止マニュアル」の作成に着手している。		

### A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
【A3】	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント> 利用契約時、家族が記入した「利用者状況表」をもとに、身体状況や趣味、本人のできることなどを確認し、日中活動センターでは何をやりたいのか、どの仕事がよいかなどを聴く機会を多く作っている。メール便(ポスティング)の仕事の時は、職員と一対一の時間が持てるので、本人の要望や意見を聴く良い機会としている。現在、4事業共通の「アセスメント表」の作成に取り組んでいる。利用者一人ひとりの状況を把握して、利用者が自主的に活動できるよう支援している。		

【A4】	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>言葉が不自由な利用者に対し、文字盤や絵カード、視線文字入力など、一人ひとりの状態に合ったコミュニケーション機器を活用している。館内の障害者センターの言語聴覚士と連携し、その方にあつた機器を活用して、コミュニケーションが適切に取れるよう工夫している。言葉を出すことはできないが、簡単な質問に答えられる方には、ジェスチャーで「イエス」「ノー」を答えてもらっている。</p>		
【A5】	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>利用者から定期的に話を聴く時間を設けている。利用者本人から申し出があつた時には、時間を作り、すぐに話を聴くようにしている。もっと仕事を増やしてほしい、違う仕事がしたいなど、利用者から申し出があつた場合も、なぜそう思うのか、工賃が安いと思っているためか、ここがいやなのかなど、丁寧に確認して対応している。言葉の表出が困難な方には、写真や絵などを提示し、本人が決定できるようにしている。ケーキを選ぶ際も、数種類のケーキの写真を提示して選んでもらっている。就労や通所先の希望、生活の相談などに対して、障害者センターの職員と連携し、利用者本人と問題点などを話し合いながら支援している。</p>		
【A6】	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>就労移行支援事業と就労継続支援B型事業は、仕事が活動の中心になるが、ボッチャやフリスビーなどのスポーツ、忘年会などの行事も楽しんでもらっている。就労継続支援B型事業では、金曜日午後「お疲れ様会」を行い、利用者の自主性を引き出すため、利用者が順番に司会を担い、「ひとことタイム」の時間を設け、全員が自分の今の気持ちを話している。最初はなかなか話せなかった方も自分の気持ちが言えるようになってきている。利用者の支援は、それぞれの個別支援計画に基づいて行っている。個別支援計画は、内容を定期的に見直している。女子会の外食、公共交通機関の利用訓練なども行っている。就労移行支援事業で行っているグループワーク、仕事センターからの就労体験なども、すべて個別支援計画に基づいて実施している。</p>		
【A7】	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>高次脳機能障害や発達障害、行動障害など、利用者には様々な障害があるため、障害に対する専門知識の習得と、支援の向上のため、定期的に研修会を開催している。北部リハビリテーションセンター全体で、「大人の発達障害とは」などの研修を行っている。地域の中の日中活動センターとして、対応が難しい利用者の受け入れを積極的に行っている。障害者センターの専門職とも連携し、各事業の週1回のミーティングで支援方法を検討し、内容を全体ミーティングで共有している。</p>		

A-2-(2) 日常的な生活支援		
【A8】	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>昼食の提供は業者委託だが、月1回、給食会議を開き、情報共有している。利用者のほとんどが普通食を摂っているが、ペースト食を提供している利用者もいる。生活介護事業では、食事を全介助している利用者が2名、半介助の利用者が3名いる。胃ろうを造設している利用者も1名いる。利用者の声を大切にして、献立からキムチを外したこともある。季節に合った行事食を提供し、利用者が食事を楽しむことができるよう工夫している。食事内容の変更などは、「食事伝票」を使用している。移動や移乗動作が不安定で、心配な利用者は、障害者センターの理学療法士と連携し、歩行器の選定や電動車椅子の体験などを行っている。利用者一人ひとりの個別支援計画に沿って、内容を検討している。</p>		
A-2-(3) 生活環境		
【A9】	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>食堂やトイレは、社会福祉法人SKY(精神障害者作業所)、「はっぴわーく」(就労継続支援B型事業)と契約し、毎日清掃して清潔を保っている。利用者の作業室も、それぞれ物品を整理し、働きやすい環境を確保している。エントランスやセンター内は施錠していないので、利用者は自由に好きな場所で休憩をとっている。夏は暑さ対策のため、すだれを設置している。現在、コロナ対策として、生活介護事業の入り口に、シールドフィルムを貼っている。使用頻度は少ないが、体調不良の利用者が休むことのできるベッドを2台置いている。</p>		
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
【A10】	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>北部リハビリテーションセンターには、「日中活動センター」の他に、「障害者センター」、「地域生活支援センター」、「就労援助センター」があり、リハビリテーションの専門職と連携をとりながら、各事業を行っている。ここでのリハビリテーションは、単なる機能訓練ではなく、生活をもっと暮らしやすくするため、外出をするため、就労するためには、その人にとって何が困難なのかを福祉職と一緒に考え、よりその人の望む生活に近付けて行くことを目標としている。就労移行支援事業の利用者が、元の職場に復職したり、新しい職場で働くことができるよう取り組んでいる。身体機能の向上だけが目的ではなく、より良い生活を送るための訓練を目的としている。</p>		
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
【A11】	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>医療的支援が常時必要な方が利用しているので、看護師が利用者の日々の生活の健康管理を行っている。4事業の利用者は、それぞれ「健康管理表」を持ち、毎朝の検温や体調、家族の健康状態を記入して、持参している。センターに来所すると、バイタルチェックを行い、健康チェックを行ってから活動に入っている。健康面で心配なことがある場合は、嘱託医に相談できる体制を作っている。生活介護事業や生活訓練事業では、1日1回、理学療法士が監修したストレッチ体操を行い、就労継続支援B型事業では、ラジオ体操の時間を設け、健康の維持や増進に努めている。体調変化時の対応については、初回利用の前に、文書で家族に説明して了解を得ている。現在はコロナに関する情報を提供しているが、さらに健康に関わる情報提供を行っていきたいと考えている。</p>		

【A12】	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>医療的支援が必要な利用者は、看護師が対応している。地域の中に、医療的支援が必要な方の通所希望があることから、今後、日中活動センターでの受け入れ体制を整えていく必要があると捉えている。そのため、今年度、喀痰吸引研修に職員を派遣し、医療的ケアを担うことができる職員の育成に努め、地域のニーズに応じていく予定である。現在、利用者の中で服薬を管理している方は1名のみで、投薬マニュアルなどは整備していないため、作成を考えているところである。</p>		
A-2-(6) 社会参加、学習支援		
【A13】	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>就労継続支援B型事業では、仕事だけでなく、余暇支援の一環として外出を計画し、社会体験を行っている。移行先の見学や、ボッチャなどのスポーツへの参加などが、利用者に人気がある。一人暮らしの希望がある利用者には、なぜ自立を望むのか、自立に対し何が不安か、何が必要かなど、きめ細かくアセスメントを行い、作業療法士と一緒に、公共交通機関利用の練習をして、本人の夢をかなえている。本人は現在、週3回センターに自力で通所している。インターネットで検索をしたいという希望がある利用者には、パソコンの入力の練習を行っている。失語症の方には、コミュニケーションノートを活用できるよう支援している。近隣に外出して、ウィンドウショッピングや映画鑑賞などを行い、社会参加への自信につなげている。</p>		
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
【A14】	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>家庭での生活だけでなく、短期入所の利用を提案し、家族以外の支援者に慣れることを目的とし、今後の社会生活への移行の支援を行っている利用者がある。重度の身体障害者の単身生活の希望に対しては、グループホームが少ないなどの理由から、民間のシェアハウスの紹介、その他の情報を提供している。また、同じ障害を持つ方の話を聴く機会を設けることにより、自分でできること、できないことを認識し、気持ちの変化が起きている。支援者に自分を理解してもらうために、利用者はADL(日常生活動作)の状況や、食事は右から介助してくださいなど「自分の取り扱い説明書」を作成して、シェアハウスに貼っている。</p>		
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
【A15】	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>家族との連絡のため、「連絡帳」を使用している利用者もいるが、自分で説明するから必要ないという利用者もいる。利用者の中には、事業所での様子を知らせたくないという方もいる。利用者に変化があった時は、障害者センターと連携し、家族に電話連絡を取っている。遅刻が重なり、その旨を家族に連絡したところ、家族に注意されて不安定になった利用者がある。注意の仕方に気をつけてほしいことを家族に話した結果、本人も安心して通所でき、遅刻も少なくなった例がある。年2回、個別支援計画の作成時に、家族から話を聴く機会を設けている。利用者の体調不良時には、「緊急連絡先カード」に沿って対応している。</p>		

### A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
【A16】	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	
<コメント>  障害者支援の多機能型事業所で、障害児の支援は行っていないため、評価外とする。		

### A-4 就労支援

		第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援		
【A17】	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a
<コメント>  就労移行支援事業では中途障害者が多く、元の職場への復帰希望者が半数を占めている。復職や新規就労をめざしていたが、年齢から、仕事は辞めて、生活の場を望む利用者もいる。元の職場への復帰を希望する人は、今の状態で何ができるのか、作業療法士と一緒に考え、本人ができる部署に変えてもらうなど、支援している。また、企業に出向き、キャスター付きの椅子は危ないので使えないことや、ロッカーには椅子がほしいなど、障害者に対する細かな対応を提案したりしている。企業の中での郵便物の届けなど、本人ができる仕事を企業側で考えてもらい、就労につながっている利用者も多い。		
【A18】	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	a
<コメント>  就労継続支援B型事業では、受注作業が多く、一人ひとりの特性にあった仕事ができるよう配慮している。グループ毎に、ホワイトボードに一日の作業の流れを記入して、いつでも確認できるようにしている。また、個人別に工程表を作成し、構造化(工程を視覚的に示す手法)による支援を行っている。工賃明細書を渡す際に、皆勤賞には赤の星印、2日までの休みの方には青の星印を付け、利用者のモチベーションが上がるよう工夫している。平均工賃1万円以上を目指し、工賃引き上げのための方策、受注先の開拓など、取り組み中である。作業に関しては適度な休息やコロナ感染予防対策、危険防止、転倒防止、手洗い励行などに常に取り組んでいる。		
【A19】	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a
<コメント>  数年前までは受注業者が3社であったが、現在は9社と契約している。時には作業がなくなることもあるため、さらに10社目を開拓中である。現在はメール便として、ポストイングの仕事がある。利用者が身体を動かすことができる仕事を開拓中である。ポストイングは、利用者と職員が一对一で行うため、利用者とのコミュニケーションの場として、本人の考えや今思っていることを聴く良い機会となっている。ハローワークと連携を取りながら、実習先の相談などもしている。企業には復職の際の業務提案などを行っており、地域社会の中で、障害者の受け入れの理解を深める取り組みを行っている。		